

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2002. **S**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 220

日本野鳥の会 埼玉県支部

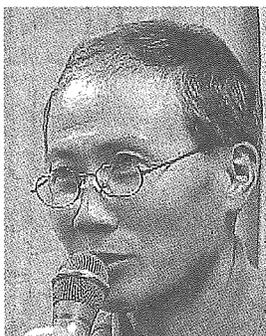
平成14年度(第18回)支部総会を開催

平成14年6月30日(日)午後1時30分から、さいたま市民会館うらわ7階研修室で、今年も支部総会が開催されました。

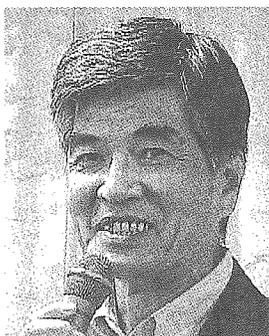
●記念講演

司会は田邊八州雄幹事が担当し、記念講演は、小坂正俊本部総務部長(右写真)の「二種類の隣接する居住環境における鳥類相の比較」と、「最近の本部事務局再編等について」。

千葉市北部の住宅地と、隣り合う昔ながらの農地の鳥類相を調査し、数値化して比較する手法についての講演と、新たな本部事務局の編成内容の説明がありました。



●議長などを選出



中島康夫支部長(左写真)、松井昭吾顧問、来賓小坂正俊氏の挨拶に引き続き、藤掛保司副支部長(下写真)が議長に、榎本秀和普及部長が書記、大坂幸男・田中幸男両幹事が議事録署名人に選出され

て、議事に入りました。

●支部規約の変更

事務所のある市の市名が「浦和市」から「さいたま市」に変わったことによる変更です。異議なく承認されました。



●13年度事業報告と14年度事業計画(案)

海老原美夫事務局担当副支部長が平成13年度に実施した事業について説明し、榎本秀和普及部長・山部直喜編集部長・福井恒人事業部長・橋口長和HP担当幹事が、それぞれ補足説明をしました。

主な説明は次の通り。

[総務・事務局関係]

13年度末の会員数は2,691人。引き続き減少。人数で156人、率で5.4%。

[普及活動関係]

探鳥会実施105回、1ヵ月平均8.75回。参加者合計4,385人、1回平均41.8人。1回平均人数は若干減少し、実施回数、合計参加者数は増加。

学校関係の指導依頼が増加し、各地の幹事・リーダーらが活躍。

[調査研究関係]

研究部はタカの渡り、ガン・カモ・ハクチヨウ類、シギ・チドリ類の調査を継続。

記録委員会は4種を初として、2種を2回目として、それぞれ記録。

[編集活動関係]

『しらこぼと』を年12回、合計30,400部発行。

[事業活動関係]

目標売上額を上回った。

14年度事業計画(案)は、基本的な従来の活動を確実に継続する方針が説明され、それぞれ承認されました。

●13年度決算と14年度予算(案)

事務局が、什器備品費、消耗品費の支出を予算より低く押さえた以外はほとんど予算に近い金額で決算されたこと、14年度予算はほぼ前年度予算並か、決算額を考慮して若干変更したこと、家賃は、今年度契約更新期であることなどを説明。

楠見邦博・岡安征也両監事が監査報告をして、異議なく承認されました。

●14年度役員

森本國夫幹事から、編集部員及びリーダーとしての活動は続けるが、幹事は退任したいと申し出があり、新たに嵐山町の後藤康夫会員（右写真）が幹事に選出されました。



新役員を含めた役員会で、支部長・副支部長・監事は、前年度通り再任することが決まりました。

平成14年度役員

- 顧問 鈴木忠雄 (熊谷市)
- 松井昭吾 (さいたま市)
- 支部長 中島康夫 (蓮田市)
- 副支部長 海老原美夫 (さいたま市)
- 藤掛保司 (川越市)
- 幹事 石井 智 (鴻巣市)
- 伊藤芳晴 (川口市)
- 榎本秀和 (鴻巣市)
- 大坂幸男 (上尾市)
- 北川慎一 (本庄市)
- 工藤洋三 (さいたま市)
- 倉林宗太郎 (さいたま市)
- 小池一男 (寄居町)
- 後藤康夫 (嵐山町)
- 小荷田行男 (さいたま市)
- 小林みどり (大和市)
- 佐久間博文 (川越市)
- 島田恵司 (鴻巣市)
- 杉本秀樹 (習志野市)
- 高草木泰行 (新座市)
- 田中幸男 (蓮田市)
- 田邊八州雄 (越谷市)
- 玉井正晴 (蓮田市)
- 手塚正義 (川口市)
- 内藤義雄 (鴻巣市)
- 中里裕一 (騎西町)
- 中村榮男 (岩槻市)
- 橋口長和 (春日部市)

平成13年度決算書・14年度予算書

収入の部

項目	13年度予算	13年度決算	14年度予算
一般会計			
期首繰越金	2,242,932	2,242,932	3,046,599
会費	4,000,000	4,089,150	4,000,000
寄付金	20,000	43,211	30,000
探鳥会参加費	250,000	331,768	300,000
雑収入	3,000	50,446	10,000
補助金	400,000	400,000	400,000
仮払い金清算	0	8,360	0
一般会計合計	6,915,932	7,165,867	7,786,599
事業部会計			
期首繰越金	765,966	765,966	1,190,172
運営準備積立金	5,000,000	5,000,000	5,000,000
売上金	800,000	905,849	800,000
雑収入	1,000	32,748	10,000
事業部会計合計	6,566,966	6,704,563	7,000,172
総合計	13,482,898	13,870,430	14,786,771

支出の部

項目	13年度予算	13年度決算	14年度予算
一般会計			
什器備品費	300,000	15,172	200,000
消耗品費	50,000	13,166	50,000
支部報印刷費	1,100,000	1,080,240	1,100,000
支部報発送料	1,170,000	1,149,855	1,170,000
印刷コピー代	200,000	153,660	200,000
通信費	200,000	149,637	200,000
雑費	200,000	162,566	200,000
家賃	984,000	984,000	1,150,000
水道光熱費	60,000	53,220	60,000
総務部費用	100,000	86,950	100,000
普及部費用	220,000	191,935	220,000
編集部費用	50,000	49,967	50,000
研究部費用	10,000	1,400	10,000
予備費	500,000	0	500,000
期末繰越金	1,771,932	3,074,099	2,576,599
一般会計合計	6,915,932	7,165,867	7,786,599
事業部会計			
仕入代金	700,000	511,111	700,000
事業部費用	10,000	3,280	10,000
運営準備積立金	5,000,000	5,000,000	5,000,000
期末繰越金	856,966	1,190,172	1,290,172
事業部会計合計	6,566,966	6,704,563	7,000,172
総合計	13,482,898	13,870,430	14,786,771

- 長谷部謙二 (川越市)
- 菱沼一充 (板橋区)
- 福井恒人 (さいたま市)
- 山部直喜 (三郷市)
- 吉安一彦 (春日部市)
- 和田康男 (行田市)
- 楠見邦博 (さいたま市)
- 岡安征也 (北本市)

監事

2002年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉支部研究部

日時：2002年4月29日 9:40～11:30
 場所：さいたま市 大久保農耕地
 天候：晴れ

1999年～2002年 春のシギ・チドリ類調査結果

調査当日は高気圧に覆われ、絶好のカウント日和となりました。また、連休の谷間の中にもかかわらず、支部会員25名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

観察された鳥類・個体数は8種、166羽で、昨年の春と比較すると、種類では2種類多くなりましたが、個体数では149羽少なくなりました。

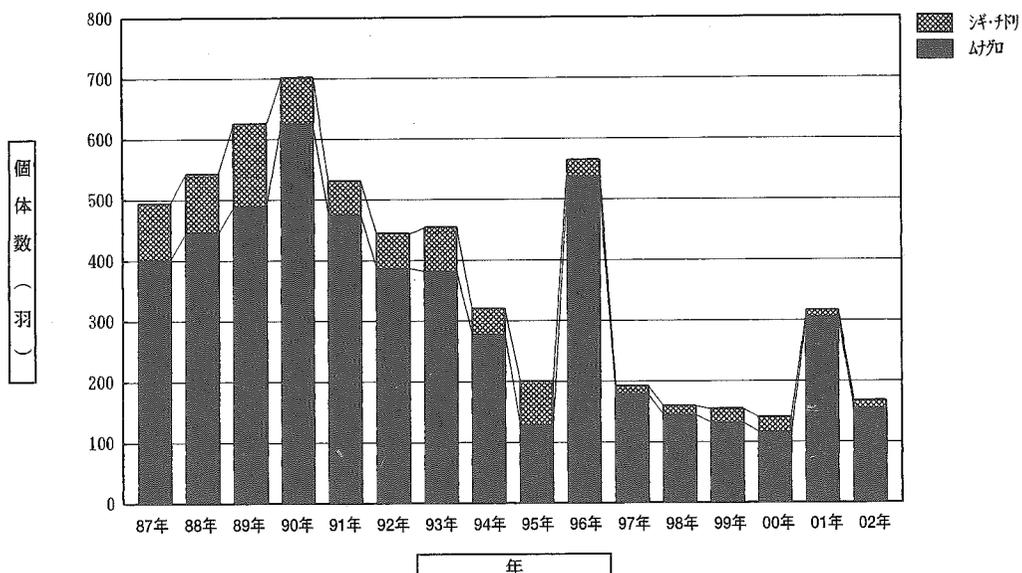
今回はケリが14年ぶりに確認され、春のカウントでは初めての記録となりました。

グラフは春のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。

(石井 智)

調査地	大久保農耕地 さいたま市			
	'99年	'00年	'01年	'02年
鳥類				
コチドリ	2	5	2	6
ムナグロ	130	115	304	153
ケリ	—	—	—	1
キョウジョシギ	4	—	2	1
アオアシシギ	7	—	—	—
タカブシギ	1	5	2	1
キアシシギ	1	—	—	—
チュウシャクシギ	5	11	4	2
タシギ	3	3	1	1
オオジシギ	—	—	—	1
個体数合計	153	139	315	166
種数合計	8	5	6	8

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



1. ウォッチング

入間川に架かる中橋の下流に大きな中州がある。ここにテントを張って5年間カワセミの観察をしてきた。そして、5月28日には11時15分から16時30分まで延べ315分間観察した。今季は、羽毛がすり切れて色あせた二年目の縄張りの主の雌と、よそからやって来た若い雄がつかいになり、求愛給餌、交尾、巣穴掘り、抱卵、育雛と繁殖行動を続けていたが、雄は5月6日から行方不明。今は雌が懸命に餌を運んでいる。この日は、クチボソを入れた餌箱から一匹を捕り、止まり木に打ちつけて魚を気絶させ、嘴の先端から魚の頭が出ている「逆くわえ」をして巣に向かって飛びたつ時刻を記録した。雌は25匹の魚を運んだ。表にまとめて示す。

2. 巣の所在

餌箱を開放し、テントを出て中州の先端に立ってカワセミの飛び去る行方を双眼鏡で追った。中州の下流には圏央道と新豊水橋が架かっている。その手前の左岸に生える大きな木の緑に紛れてカワセミの姿は消える。そこで、その木を探して行くと、墓所販売会社の裏に出た。そこには、直径約5m、深さ約2mの穴が掘られ、梱包材料などを焼却処分するゴミ捨て場があった。垂直に切られた穴の壁面は、石や木の根を含まない砂質の表土と粘土質の関東ローム層が露出している。地表から約50cmほど下に巣はあった。中州の餌場から巣までは、縮尺1万分の1の地図から、約630mの直線距離と求めた。

3. ヒナは何羽いる？

餌を持ち去る時刻の間隔には、3分から10分が11回、11分から16分までが9回、21分から37分までが3回と、三つのパターンがある。10分未満で餌場と巣を往復する力を持っているのに間隔が間延びするのは、カワセミがどこかで休んでいると想定する。表からは、4匹の魚を運んで25分の小休止をとり、再び4匹運んで21分の小休止、8匹運んで37分の大休止、さらに4匹運んで29分の小休止をする、というパターンが見えてくる。巣の中には4

羽のヒナが入っていると思う。

4. 時速何キロで飛んでいる？

餌場から巣までの直線距離、往復1.3kmを所要時間3分から10分で飛んでいる。その回数11回の所要時間の平均は5.6分である。時速は、最速25km/h、平均13km/hになる。

5. 結末

4羽のヒナに魚を1匹ずつ与え、一休みしてまた餌を運ぶ。雌親はせっせと育雛に精を出し、入間川の水面を飛んでいた。

5月31日、墓所販売会社の裏にテントを張らせてもらい、巣の出入りの様子を観察した。中州にある餌箱は開放してある。10時から17時まで待ったが、雌親は姿を見せなかった。巣からはヒナの泣く声がミンミン、ジージーと聞こえる。異常に気付いたころ、近くに住む人が「青い鳥が死んでいる」と知らせにきた。私は雌親が車にひかれてペシャンコになった死骸を確認した。それを持って中州に戻り、テントを撤収し、いつものテント場に穴を掘って埋めた。墓標は建てず、雑草の繁るにまかせた。

数日後、巣のあった場所に行き、作業員から結末を聞いた。巣穴のトンネル出口あたりで2羽のヒナが餓死し、奥の産室に衰弱したヒナが2羽生き残っていたという。予想どうりヒナは4羽だった。生き残ったヒナは日本野鳥の会の方が収容して持ち帰ってくれたそうだ。

表 エサの持ち去りパターン

回数	時刻	間隔	パターン	
1	11:35	**		4回
2	11:40	5分		
3	11:51	11"		
4	11:55	4"		
5	12:07	12"	小休止	4回
6	12:32	25"		
7	12:48	16"		4回
8	12:51	3"		
9	13:03	12"	小休止	8回
10	13:24	21"		
11	13:37	13"		8回
12	13:43	6"		
13	13:47	4"		4回
14	13:52	5"		
15	14:00	8"		4回
16	14:10	10"		
17	14:23	13"	大休止	4回
18	15:00	37"		
19	15:16	16"		4回
20	15:20	4"		
21	15:31	11"	小休止	4回
22	16:00	29"		
23	16:06	6"		4回
24	16:13	7"		
25	16:25	12"		

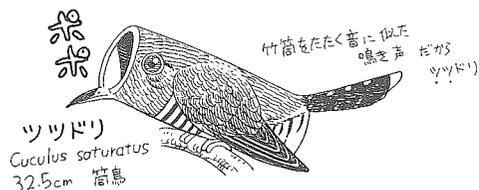


さいたま市岸町調 (つきのみや) 神社境内林

◇4月20日から断続的にツミのペアの求愛給餌、交尾等を観察。巢は見つからず、5月2日が終認。5月12日、サンコウチョウの声。5月16日、アオバトの声(海老原美夫)。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇4月23日午後2時30分頃、子供の森でツツドリ2羽。4月29日午前8時30分頃、子供の森でイカル、センダイムシクイの声はするが姿は見えぬ。アカハラ、クロジ各1羽、地表で採餌。5月8日午後1時30分頃、ピクニックの森北西縁のポプラの木からトランペットの壊れたような妙な音がするので探したら、オレンジ色の脇腹が見えた。よくみたら、頭真っ黒のイカル♂でした。しばらくして南へ飛んでいった。同日、大久保農耕地B区でオオタカ若鳥1羽、木にとまっていた。Aサイド区でムナグロ約60羽。A区でムナグロ3羽。A'区でムナグロ約10羽、チュウシャクシギ1羽、キアシシギ3羽。5月14日午後2時頃、子供の森で笹藪の中でクロジ3~4羽、はっきり見えたのは、なぜか♀ばかり(鈴木紀雄)。◇5月9日午前9時15分~10時15分子供の森でサンコウチョウ♀1羽、ブルーアイリングと肩羽の茶色がよく見えた。メボソムシクイの声、私は当地で初確認。5月15日午前8時30分~10時、子供の森でサンコウチョウの♂にやっと逢えた。♂♀で交差して飛んでいた(藤澤洋子)。

さいたま市白幡 ◇5月12日、農家の屋敷林



(カット・富士鷹なすび)

からキビタキの声(海老原美夫)。

さいたま市深作、丸ヶ崎 ◇5月14日午後12時30分頃、水田でムナグロ約40羽、キアシシギ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市上野田 ◇5月16日午前7時頃、カッコウの鳴き声(尾沢秀一、彩葉)。

さいたま市寿能町 ◇5月18日午後10時30分~11時30分頃にかけて、自宅のテレビアンテナと隣の4階建てマンションの集合アンテナでアオバズクの番いがずーっと鳴いていた。1週間位前に近所で午前3時頃やはり鳴いていたそうです。その時は大きな鳴き声だったそうですが、昨夜はくぐもったようなそれほど大きな鳴き声ではありませんでした。周辺にアオバズクはいますが、まさかうちのアンテナにくるなんて“ウッソ〜”という感じです(菊池あき子)。

春日部市内牧 ◇4月24日午前9時頃、林床から飛び、枝にとまる小鳥を双眼鏡で見たらクロジ♂若鳥だった。アオジよりも弱く高い金属的な「チン」と聞こえる声を交わしながらと5~6羽で飛び去った。林を出て「ヒリリ」と聞こえるので見上げるとサンショウクイが1羽、真上を飛んでいてビツクリ。4月25日午前8時30分、林内でキビタキ♂1羽、コジュケイに似た調子でさえずっていた。4月27日午前8時、林内でキビタキ♂1羽、センダイムシクイ1羽。4月30日午前9時、アカハラ4~5羽、同時に「キョロンキョロン」と鳴いていた。5月14日午前8時30分頃、キビタキ♂1羽、メボソムシクイ1羽さえずっていた。その他ムシクイ類不明種2羽(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜 ◇4月23日午前9時30分頃、療養所内の林でマヒワ約10羽。4月26日、水田でムナグロ20羽と50羽の2群、チュウシャクシギ1羽。4月30日午前9時頃、水田でムナグロ70羽、60羽、20羽、25羽の4群、キョウジョシギ1羽。5月3日午前9時30分頃、水田地帯でムナグロ約120羽、キョウジョシギ1羽、キアシシギ1羽(鈴木紀雄)。

岩槻市文化公園 ◇4月24日午後1時頃、クヌギの木でコムクドリ♂4羽。元荒川沿い

でコアジサシ4羽。4月26日午後1時30分頃、コムクドリ♂3羽（鈴木紀雄）。

岩槻市長宮 ◇4月29日午後1時頃、水田の畔でチュウシャクシギ1羽。5月1日午後1時30分頃、広い水田地帯でチュウシャクシギ2羽、オオジシギと思われる個体1羽。5月5日午前9時頃、道路脇の田植え前の水田の草かげにタマシギ♂♀がうずくまっていた。5月8日午前9時30分頃、ムナグロ約60羽、チュウシャクシギ1羽（鈴木紀雄）。

幸手市下吉羽 ◇5月3日、水田でキョウジョシギ1羽。5月6日、中川でヒドリガモ♂2羽♀3羽（秋間利夫）。

幸手市木立 ◇5月6日、中川でユリカモメ1羽（秋間利夫）。

杉戸町遠野 ◇5月3日、水田でチュウシャクシギ1羽（秋間利夫）。

羽生水郷公園 ◇5月12日、周辺の田んぼでムナグロ約50羽、アマサギ1羽、チュウサギ多数、ゴイサギ1羽、クサシギ2羽、タシギ1羽、コチドリ多数、オオヨシキリの大合唱（四分一保雄）。

入間市宮寺 ◇5月12日午前10時頃、狭山丘陵金堀沢でサンコウチョウ♀1羽、オオルリ♂1羽、キビタキ♂1羽、アオゲラ♀1羽。いずれも姿を確認。他にクロツグミ、ヤブサメのさえずり（石光章・治美）。

狭山市北入曾 ◇5月18日、今年もカッコウがきました。日にちも同じ5月18日でした（久保田忠資）。

玉川村田黒 ◇5月3日午前6時30分～9時、クロジ4羽、オオルリ1羽、センダイムシクイ1羽、イカル2羽、ガビチョウ数羽。オオタカ1羽、風切羽が抜け落ちた見ても無残な姿で飛翔していた。トラツグミの声



ツバメチドリ（外園たけの）

がしばらく谷間に響いていた。トビ、アオゲラ、アカゲラ、エナガ、ヤマガラ他合計23種（後藤康夫）。

嵐山町將軍沢 ◇5月5日午前6時30分～9時、エゾムシクイ、竹林の中で盛んにさえずっていた。ガビチョウ、荒れ果てた谷津の草地に姿を見せ、セイタカアワダチソウの枯れた茎にとまった。数ヶ所でうるさいくらいにさえずっていた。オオルリ1羽、アオゲラ、アカゲラ、カワセミ他合計25種（後藤康夫）。

横瀬町県民の森 ◇5月11日、ツツドリ、ジュウイチ、コルリ、クロツグミ、ヤブサメ、センダイムシクイ、メボソムシクイ、オオルリ、キビタキ。5月15日、ツツドリ、コルリ、クロツグミ、センダイムシクイ、キビタキ。5月23日、ツツドリ、ジュウイチ。ホトトギス2羽がひっきりなしに鳴きながら森の中を飛んでいた。コルリ、クロツグミ、ヤブサメ、センダイムシクイ、オオルリ、キビタキ。アカゲラの巣穴を2ヶ所発見。どちらも口いっぱい虫をくわえた親鳥が巣穴へ餌を運んでいた（小林ますみ）。

美里町広木 ◇5月13日、JR八高線松久と児玉間の線路際の田んぼでアマサギ12羽。電車の中から観察。今シーズン自己初認（増尾隆・節子）。

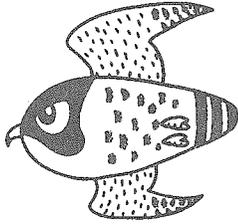
表紙の写真

セッカ（スズメ目ウグイス科セッカ属）

今年の久保農耕地はなぜかセッカが少ないと思いながら、土手道を自転車で走っていたら、鳥友N氏がカメラを構えていた。近づくと、土手の斜面の草むらに、巣立った幼鳥が何羽かちらちらしている。なんだ、ここにいたのか。お母さんが餌を運んでくると、いっせいに近寄って赤い口を開ける。時々生意気にも、右足と左足で別な草をつかむ、セッカ独特の止まり方もする。

写真と文・自転車の鳥見人（さいたま市）

行事あんない



(何森 要)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月4日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8：40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野（安）、永野（京）、山野、樋口

見どころ：「夏と秋と二つにわりし西瓜かな」（成美）。8月にはこんな俳句がよく似合う。鳥たちは繁殖を終えて換羽のシーズンに入ります。今回はゴミ拾いをせずにのんびりと里山を歩きます。暑さ対策はじゅうぶんに。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月11日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：中里、和田、森本、倉崎、高橋、後藤、藤田、栗原、大澤

見どころ：立秋を過ぎて暑さもだいぶ和らいで、といたいところですが、まだまだ暑い。でも鳥の世界、シギやチドリは秋の渡りを始めています。暑さに負けないで河原に涼風を求めながら歩き

ましょう。こんな中で見た鳥は印象深く残りますよ。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月17日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：8月18日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、清水、小菅、新部

見どころ：旧盆が過ぎてそろそろ夏休みも終わり。日中は暑いが夕暮れにはさわやかな風が見沼田んぼをふきぬけて、鳥たちの季節が訪れはじめている。夏、北の国で過ごした鳥たちが、南の国への旅の途中によっていく。夏の鳥談義を三室で交換しよう。

千葉県船橋市・船橋海浜公園探鳥会

期日：8月18日（日）

集合：午前9時30分、JR総武線船橋駅改札口付近。集合後京成バス9：40発船橋海浜公園行きに乗車、終点下車。

交通：JR 武蔵野線南浦和 8：30→西船橋にて
総武線乗り換え、船橋下車。

担当：佐久間、菱沼（一）、玉井、齋藤

見どころ：私たちにはまだ夏ですが、鳥たちにはもう秋。渡りが始まっています。三番瀬ではシギ・チドリ、コアジサシの大群に、もしかしてミヤコドリやカイツブリ類の夏羽が見られるかもしれません。海浜には日陰がありませんので、帽子、飲み物もお忘れなく。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：8月25日（日）

集合：午前9時40分、JR 武蔵野線南船橋駅
改札口付近。

交通：JR 武蔵野線武蔵浦和 8：34→南浦和
8：37→南船橋 9：29 着

担当：杉本、菱沼（一）、手塚、長谷部、
伊藤（芳）、

見どころ：八月が秋の渡りのピークです。干
潟の鳥は見せ惜しみしません。シギ・
チドリを見たい方、あまり見たこと
のない方、ほかに出かけるところのない
方も谷津干潟へ是非どうぞ！

リーダー研修会

期日：9月1日（日）午前9時～午後5時

会場：北本市中央公民館第三会議室（北本市
本町1-1-2 Tel 048-591-7321）

交通：JR 高崎線北本駅西口下車、徒歩約10
分。駅前大通りを真っすぐに西へ進み、
二つ目の信号を左折して約100m。

申し込み：8月10日までに榎本普及部長

役員・リーダーも、必ず事前に参加申
し込みをしてください。

参加資格：探鳥会や支部活動に、リーダーと
して協力できる支部会員。

案内：当支部には職員はおりません。会員の
ボランティアが、探鳥会の運営をはじめ、
すべての支部活動を支えています。

あなたの新鮮な力をお貸しください。

野鳥の識別講座ではありません。ま
た、野鳥の会本部のバードウォッチン
グ検定・同案内人研修会とも全く関係
ありませんので誤解のなきよう……。

持参するもの：パンフ『探鳥会のすすめ方』
（お持ちでない方は当日配布予定）、筆
記用具。なお、昼食は当方で用意いた
します。

佐渡のトキとイワツバメ

藤掛保司（川越市）

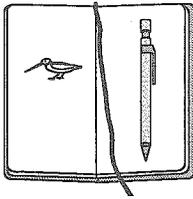
純粋な日本のトキは、35才になったキン
（♀）1羽。中国から贈られて来たのは、1999
年1月に洋洋（ヤンヤン）♀と友友（ヨウヨウ）
♂、そして2000年10月には、美美（メイメイ）
♀の、計3羽。当初は中国産の「どじょう」
しか食べなかったそうです。

洋洋と友友、その子供の優優（ユウユウ）♂
とお嫁さん美美的、2つがいの子供を含めて、
2002年6月現在、合計27羽が飼育されてい
ます。2002年3月には、優優と美美の子供、
2羽（つばさ・にいぼ）を中国へ贈りました。

今はケージで飼育されていますが、将来は
放鳥も考えているとのことでした。

佐渡からの帰り、赤泊港のえっさ丸（1478
トン）に乗船したところ、見送りのウミネコに
混じって、イワツバメが船の廻りを飛び廻っ
ていました。飛んでいるイワツバメは途中で
引き返しましたが、なんとデッキに数ヶ所の
巣があり、その1ヶ所には親鳥が寺泊港迄の
46kmの航路2時間、唄の文句ではありません
が、恋の翼で越えなくて、船の旅でしかも無
銭乗車をしていました。

船員さんに聞くと、再び赤泊港に近づくと、
引き返したイワツバメも寄ってきて巣作りを
するそうです、子育て中の1羽をよろしくと
お願いして、下船しました。



行事報告

3月10日(日) さいたま市 見沼自然公園

参加: 66人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ バン オオバン タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 初めは、鳥影も少なかったが、後半出現鳥も多く、オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ、セキレイ類も4種を数えた。また、ラジコン飛行機にハシブトガラスが集団でモビングする滑稽な様子に大笑い。(工藤洋三)

3月10日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 11人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オオバン タゲリ タシギ ユリカモメ セグロカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ メジロ ホオジロ ホオアカ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) ぽかぽか陽気のなか、11人と少数精鋭ののんびりムードで公園と外縁の農耕地を歩いた。ホオアカをじっくり観察できたし、お目当てのシラコバトも2度も出てくれたが、突然湧き出したカラスの大群の上を飛んでいた猛禽は確認できず残念だった。(田邊八州雄)

3月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10人

新井浩、荒木恒夫、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、尾崎甲四郎、藤掛保司、藤野富代、松村禎夫、百瀬修

3月17日(日) 長瀨町 宝登山

参加: 29人 天気: 快晴

トビ ノスリ キジバト アオゲラ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ マヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 季節が早く進んでいるようで、道端のコスミレ、ノジスミレ、タチツボスミレ、カントウタンポポなどの山野草があちこちに咲き、ツノハシバミ、ミヤマウグイスカグラ、フサザクラ、アブラチャンといった樹木も花を咲かせていた。ルリタテハやテングチョウの道案内で山頂を目指すと、途中のハンノキでマヒワが種をついばんでいた。(小池一男)

3月17日(日) さいたま市 三室地区

参加: 69人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ コジュケイ キジクイナ バン コチドリ タシギ ケリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 桜、桃、ハクモクレン、レンギョウ、菜の花。花花花。そして鳥たちとの楽しい出会い。2回目のケリは畑でゆっくり。カワセミは芝川の岸辺でカルガモのペアのあいだに収まっていた。コチドリやツバメも初夏の陽気に誘われて出現。また久しぶりに歩いた芝川左岸の土手からはクイナのちょこまかとした歩き、コガモの休憩が見られた。参加者も喜んだが、リーダー真利の探鳥会だった。(楠見邦博)

3月17日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 37人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ トビ オオタカ ノスリ コジュケイ キジ バン イカルチドリ キジバト カワセミ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 定番のカワセミは盛んに餌を運んでいた。今回はノスリが木に止まっているところと、きれいな旋回も見られた。鳥合わせの場所では、ベニマシコの♂がヤマセミの代役を立派に務めてくれた。(藤掛保司)

3月24日(日) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 31人 天気: 晴

コガモ トビ ノスリ キジバト コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ ホオアカ マヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) スタート直後の大谷川では予定通りカワガラスやキセキレイを見た。稲荷川沿いの道を歩いていると皆が期待しているミソサザイのさえずりが聞こえ始め、岩の上で鳴いている姿も全員で見ることが出来た。カラ類もほとんどが姿を見せて満足出来る一日であった。(玉井正晴)

3月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 29人 天気: 晴後曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ トビ オオタカ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ セッカ シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) シメやジョウビタキに別れを告げ、コチドリ、ツバメに再会。例年なら咲きはじめたばかりのカタクリは、すでに満開。桜まで満開。3月に花見ができるなんて……。 (長谷部謙二)

3月31日(日) 秩父市 羊山公園

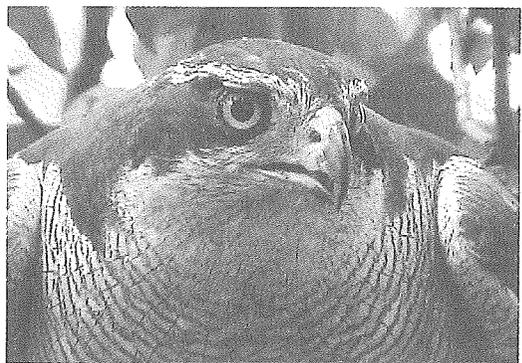
参加: 45人 天気: 曇

カワウ コジュケイ キジ キジバト コゲラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 例年より10日遅く開催し、桜は例年よりずっと早く開花。時期がぴったり合って、まさにお花見探鳥会。西武秩父駅ではイワツバメが巣の修復にいそがしく、公園脇には、スズメが蜜を吸った食痕つきの桜の花がたくさん落ちていた。お目当ての色付きの鳥たちは出なかったけれども、カシラダカの複雑なさえずりも聞こえて、爛漫の春を満喫。(海老原美夫)

3月31日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 25人 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ オオタカ コジュケイ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) オオタカが後ろ姿を見せて枝に止まっているのを全員が確認するラッキースタートとなった。浅間神社の森では、シメの群れが渡りに備えて若芽を食べ、満開の桜にはメジロの群れが蜜を求めてにぎやかであった。古墳の池には、ハシビロガモが20羽近くいて羽色の彩りを楽しませてくれた。またジョウビタキは萌えてた木に止まり、絵になる美しさと会員の声。最後はシジュウカラの巣作りを全員が見られるラッキー。(内藤義雄)



オオタカ (編集部)

連絡帳

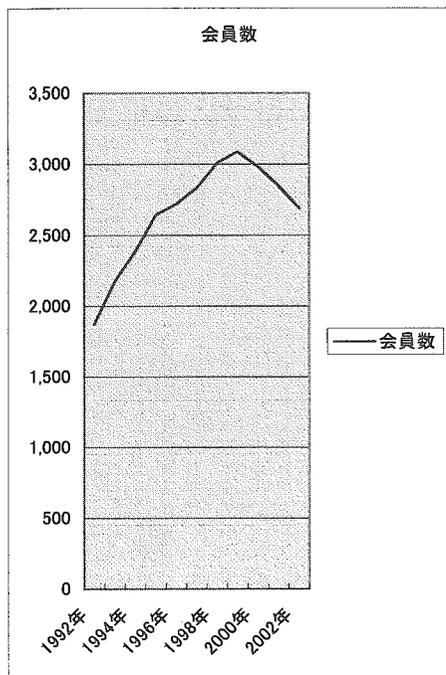
●鳥獣保護区の拡大意見書提出

5月20日付けで、さいたま市環境総務課環境保全担当から、県第9次鳥獣保護事業計画に基づき、大宮公園鳥獣保護区(26.4ha)を、大宮第二公園周辺まで58.4haに拡大することの意見を求められましたので、「拡大することに賛成。本来全地域を鳥獣保護区とし、やむなく限られた地域のみ狩猟許可とする体制であるべき」との意見書を提出しました。

●会員数の変化

1992年から今年まで、4月1日の会員数をグラフにしてみました。

最大数は1999年の3,087人。その後3年間減少が続き、ピークの3年前、1996年に近い数字まで下がっています。



●ごめんなさいコーナー

前月号5ページ、「図4 5年ごとのムナグロの平均」の内、97年～01年秋の「26」は、「93」の誤りでした。

●8月の事務局 土曜と日曜の予定

- 3日(土) 9月号編集作業。普及部会議。
- 10日(土) 9月号校正。
- 17日(土) 9月号袋づめの会。
- 18日(日) 役員会。

●会員数は

7月1日現在2,678人です。

活動報告

6月8日(土) 校正作業(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司)。

6月16日(日) 役員会議(司会:倉林宗太郎、各部の報告・総会準備・準備書類の確認・役割分担・9月から12月までの行事予定・その他)。

6月17日(月) 支部報のみの会員宛て7月号発送(倉林宗太郎)。

6月26日(水) 総会資料作成(事務局)。

編集後記

越谷市のレイク・タウン造成地は、今やコアジサシ、コチドリ、カルガモ、オオヨシキリ、セッカの一大繁殖地になっている。冬は猛禽類も来るに違いない。このままでいいのに……と思うのは、私だけだろうか。(山部)

職場でツミが繁殖。2羽が無事に巣立った。カラスに負けなかった親に乾杯!!(森本)

4月28日からひそかに密猟防止の監視活動が続いていたオオタカは、1羽だけだった雛が、6月29日に巣の真下に落ち死んでいるのを発見。大きな外傷もなく、原因不明。(海老原)

しらこぼと 2002年8月号(第220号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社